



活動タイトル	みんなで作って食べよう！ 寿こども料理食堂		団体名	公益財団法人住吉隣保事業推進協会		
<p>1年間の活動（アウトプット）の目標（事業全体）</p>	<p>【1】こどもの食育・居場所事業 ①みんなで作って食べよう！「寿こども料理食堂」／②みんな集まれ！「みんなの居場所」 【2】寿こども料理レストランの開催、【3】地域のどっこい喫茶への出店 【4】ボランティア研修、【5】こども食堂視察、【6】こども食堂視察報告会、【7】寿こども会議の開催、【8】スポーツ大会&銭湯体験 【9】活動の報告・周知</p>		<p>■活動風景</p>			
	<p>■活動報告</p>	<p>■1年間の目標に対する達成状況</p>	<p>日常の寿こども料理食堂の様子</p>			
<p>【1】こどもの食育・居場所事業 ①みんなで作って食べよう！「寿こども料理食堂」 「子どもたちの自立」を目的に、地域住民・ボランティアと一緒に夕食を調理し、食べる会を開催。（月2回） ②みんな集まれ！「みんなの居場所」 「寿こども料理食堂」開催時以外でも、こども達が安心して来れる居場所として当センターを休館日以外開放。（月～土） 【2】こども料理レストランの開催 子どもたちが「寿こども料理食堂」で学んだ調理の技術を活かし、保護者の方や、物品寄付してくれている方へ料理をふるまうレストランを開店する予定だったが、予定を変更した。 【3】地域のどっこい喫茶への出店 月1回第3土曜日に行っている地域喫茶で、子どもたちが調理したお菓子や軽食のふるまいを行う予定だったが、地域のお祭りへの出店に変更。 【4】ボランティア研修 「こどもの居場所」というテーマで、研修会を行った。 【5】こども食堂視察&【6】こども食堂視察報告会 平野みんな食堂連絡会事務局と意見交換会を開催し、住吉区と平野区のこども食堂の現状や課題を共有した。 【7】寿こども会議の開催 年間を通して達成できたことなど、こども達の意見を直接聞く会を開いた。 【8】スポーツ大会&銭湯体験 こども達の意見をもとに、ごはん会以外での活動にも挑戦した。 【9】活動の報告・周知</p>	<p>【1】こどもの食育・居場所事業 ①「寿こども料理食堂」 年24回 延べ参加者数こども448人、ボランティア240人 ②「みんなの居場所」 月～土 延べ2577人 【2】寿こども料理レストランの開催 保護者への呼びかけをおこなったが、参加者申し込みがなかった。当センター内で寄付をおこなっている団体や職員の方に調理し届けた。 【3】地域のどっこい喫茶への出店 どっこい喫茶でのふるまいは行わず、地域の夏祭りでの出店をおこなった。 【4】ボランティア研修 「こどもの居場所」 年8回開催 参加者延べ 【5】こども食堂視察&【6】こども食堂視察報告会 「平野みんな食堂連絡会事務局」と意見交換をおこなった。またその後、平野食堂連絡会に講師として招いていただき、各団体についての報告会に事務局とボランティアが参加した。（年2回） 【7】寿こども会議の開催 こども達から、「次回作りたい料理」や「料理会に参加してできるようになったこと」「ごはん会でやってみたいこと」などの意見を聞くことができた。（年1回） 【8】スポーツ大会&銭湯体験 ・前年度の「寿こども会議」で意見として出していた「スポーツ大会+こども食堂」を実施。（年1回、17人参加） ・銭湯体験は、別の取り組みで実施。（年1回、23人参加） 【9】活動の報告・周知 報告書を500部作成、関係機関に配布した。</p>	<p>いつも購入しているお米の生産地(滋賀)に行き、お米の生産について学びました。</p>				
<p>■1年間の活動のまとめ</p>	<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>	<p>■実施した人材育成策</p>	<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			
<p>計画通りに活動を行うことで、こども達や地域の中での認知度が上がってきており、「寿こども料理食堂」においては、総勢67人のこども、25人のボランティアの参加があった。毎回参加をしている子たちの調理技術はどんどん向上しており、野菜を切ることからんぶらを揚げることまでできるようになった。 また、昨年度の「寿こども会議」でこども達から意見が出ていた、「スポーツ大会」、「遠足」といった活動にも取り組むことができ、「考える⇒行動に移す」ことを行っていくうちにこども達に主体性が出てきた。「みんなの居場所」からこのような取り組みに参加をする子も少なくない。 運営面においては、ボランティアの数が安定しないのが課題だが、学校・コミュニティソーシャルワーカー（CSW）などの機関と連携することにより、専門的な支援が必要なこどもや家族に対して一定の支援の仕組みができてくる。 資金面においては、こども達と地域イベントへの出店をした際の売上、個人・企業・社協などからの物品・寄付金を受け付けることにより、負担を軽減することができた。波及効果については、事務局が講師として研修会に招かれる回数が6回あった。</p>	<p>・毎回の活動名簿を作成することにより、こども達の参加状況、友達関係や兄弟関係などがわかりやすくなった。 ・虫歯やネグレクト傾向にあるこども達を発見し、適切な機関につなぐことができています。 ・「寿こども会議」やアンケート調査を行うことにより、こども達の心境や活動への希望などが把握しやすくなり、こども達の意見に寄り添った活動ができています。 ・チラシや活動報告書を作成・配布することにより、自団体の活動を周知しやすくなった。 ・他団体との連携を図り、意見交換会や交流を行うことで、自団体の成果や課題を可視化できた。 ・毎回の活動を通し、こども達と関わることにより、ボランティアがこども達の相談を聞いたり、つぶやきを拾うことができてきている。</p>	<p>【自団体】ボランティア会議 ・他団体との意見交流会2回開催 ・「食品ロス」、「お米の生産」についてなど、外部講師を呼んで学習会を行った。 【他団体】 「こどもの居場所」というテーマで、年6回の他団体への研修会の講師として講演を行った。 実施した人材育成の取り組みを通し、自団体に関しては、食に関する他団体の取り組みをボランティアと共有することができ、他団体に関しては、「寿こども料理食堂」で得たノウハウを発信することができた。</p>	<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>24回の「寿こども料理食堂」計4回のイベント 計8回のボランティア研修会</p>	<p>を達成しました。</p>	
<p>■受益者の変化（効果測定結果等）</p>			<p>・子どもの参加者は80%がリピーターである。 ・調理技術が向上し、調理時間が短くなってきた。 ・野菜の切り方などは見本を見せなくても切れるようになってきている。 ・味噌汁などは、指示がなくても作れるようになってきた。 ・「考える⇒行動に移す」というような指示待ちの姿勢から、指示を出す側に回ってくれる高学年が増えた。 ・「寿こども料理食堂」に来てから家でも手伝い等をするという声が昨年度は、0人から今年度は2人に増えた。 ・「寿こども会議」やアンケートで、映画会などの「次はこれをしたい」とかとかんかつやデザートづくりなど、「次はこれを作りたい」などの意見が出てきている。</p>			